

☆七夕のこと☆

七夕は、正確には「七夕の節句」といいます。(中国から伝わる)

節句とは、季節が変わる時にするお祭りです。

そして、日本では機で織った着物を神様にお供えして、豊作や厄除けを願った行事が始まりです。

神様のために着物を織っていた乙女を「棚機女」といい、織り機を「棚機」と呼んでいました。また、着物を捧げる時に設ける棚(祭壇)を「棚機」といっていました。この二つのことが合わさって「七夕」と呼ばれるようになりました。

織姫と彦星の昔話が加わって今のような行事に変化しました。

笹の葉を飾ると、織姫と彦星の力で飾った人の願いが叶います。

みんなを悪いものから守ってくれるという言い伝えがあります。

笹竹には、神様がいて、悪いものを追い払う力があると言われてい
ます。

短冊とは、細長く切った紙や木のことです。

七夕では、この短冊に願い事を書いて笹竹に飾ります。

願い事は、何枚、書いてもよいとされています。

七夕の夜、暗くなったら空を見上げて星を探しましょう。

天の川が見えたら両端に輝いているのが織姫星と彦星です。

カササギ星が近くに見えます。夏の三角形と呼ばれている星座です。